



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス(JSO)

No.152

最終ページに「第17回AA日本全国評議会を終えて」を掲載いたしました。

小冊子「酒にとらわれた日々」が発売されました。

頒布価格：400円

矯正施設入所経験者5名による体験集です。矯正施設へのメッセージ活動や、関係機関への広報活動にお役立てください。もちろん、矯正施設とは関係ないアルコールクにとって、力強いメッセージとなることはまちがいありません。

発売に合わせて、A類常任理事藤岡先生が販促用に書かれたものがあります。次に転用いたしますので、どうぞお読みください。



「酒にとらわれた日々」

飲酒と受刑という二重のスティグマから回復した人々の物語

大阪大学大学院 人間科学研究科
教授 藤岡淳子

1 犯罪の背景に飲酒あり? ~ 依存症としての飲酒

近年では、刑務所の中でも種々の特別改善指導が行われるようになり、矯正教育が再犯の防止と受刑者の社会復帰に果たす役割が期待されるようになってきている。刑務官による生活指導と作業という伝統的な方法に加え、特定の行動変化のための構造化された教育プログラムが行われるようになったことは、画期的なことである。ただ、一つ疑問に思うことは、特別改善指導に「断酒」プログラムが含まれていないことである。覚せい剤離脱指導は、第1番目に入っているのに……。覚せい剤使用は、それ自体が違法であるが、飲酒は合法であること、そして、日本の文化は比較的飲酒とその際の「非日常的行動」に寛容であるということがあるのかもしれない。

しかし実際には、アルコール自体は合法であるとしても、犯罪行為の背景にアルコール依存の問題があることは、しばしば認められる。川島と小林(2010)によれば、「多量飲酒は犯罪原因の一つであり、多量飲酒者はそうでない者に比して、犯罪を繰り返しやすい。交通関係受刑者のみならず、暴力や窃盗・無銭飲食などの財産犯、そして性犯罪などの背景にアルコールの問題があることは矯正職員にはよく知られていることであろう。犯罪のみならず、アルコール依存は、生活困窮や家庭の崩壊、そして身体的病気などとも関連がある。生き方自体が「どつぽ」にはまっていき、犯罪もその一つとして表れていると考えてもよいかもしれない。

アルコールであろうと覚せい剤であろうと、物質依存症という病であることには変わりはない。傍から見てどうであろうと、本人にとっては、飲酒にはそれなりのメリットがあり、「やめろ」と言われても、内心は、やめる気はさらさらなく、あるいはやめたい気持ちがあっても、やめられないということになる。その上、実際に教育を実施してみると、飲酒問題は、覚せい剤より厄介であると感じることがある。本人の心構えが、「節酒」

に留まり、「断酒」の心構えがなかなかできないのである。飲酒自体は合法的だけに、問題を認めないという否認の構えが覚せい剤以上に強固であるように思える。しかし、常人にとっては、百薬の長である一杯が、アルコール依存症者には連続飲酒の引き金として、看過できない赤信号であることは言うまでもない。依存症にとっては、「やめる」ことは刑務所に入れば可能であるが、社会に出た時に「やめ続ける」にはそれなりの覚悟と努力と支えが不可欠であることは言うまでもない。

2 アルコール依存と受刑からの「回復の物語」の持つ意味

「アルコールの問題にきちんと目を向けること」、その最初の一歩にとって、アルコール依存から回復した人たちの体験談ほど有効なものはない。そうした体験談は、いくつかの書籍や冊子で読むことができる。ところが、アルコール+受刑となると、まとめて読むのが難しかった。受刑というのは、アルコール以上にスティグマ(否定的烙印)となりうる。受刑を知られると、「(元)犯罪者」というレッテルだけで見られてしまい、その人自身を見てもらえなくなる危険性があるからであろう。そしてさらに恐ろしいのは、人は容易に他からの烙印を受け入れ、「自分は犯罪者(あるいはアル中)」と思いこんでしまうことである。

この小冊子「酒にとらわれた日々」には、受刑経験のある、5人のアルコール依存から回復した人々の物語が掲載されている。彼らは、自分と他のアルコール依存症者の回復のために、自らの回復の物語を語っている。そうした物語の有効性の要諦(ようてい)は、読む人の「共感」にある。ここには、共通項としての飲酒と受刑以外は、さまざまな人々がいる。非当事者にとっては、ただの「お話し」にすぎないかもしれないが、自分と似た物語をそこに見つけた当事者への影響力は極めて大きい。自分一人と思い、胸の奥底に抱えたまま封印していたことがらを、見直す契機となりうる。そして、この物語の匿名の主人公たちは、どん底から回復している!これにまさる希望はあり得るであろうか?回復の物語は、その前の苦難とセットになって初めて効果を発揮する。

幸いなことに、物質依存症からの回復のための道筋は、この30、40年間でかなりはっきり見えてきた。まだまだ大雑把ではあるが、どちらの方向へ行けばよいという地図はできてきたのである。道はあるとはいっても、依存症からの回復は、短期間で一直線に達成できるわけでは決していない。回復には、責任ある行動、仕事、よい人間関係といった、社会的に受け入れられる役割を積極的に手に入れ、スティグマに大きな顔をさせないように、あらたな自分自身を作っていく必要があるからである。あらたな自分の物語を作るには、過去の出来事と体験を見直し、語り直し、新たな意味の中に統合していく必要がある。刑務所での教育は、この道のりを始めるのには、ぴったりの機会である。しかし、この道が行きつく先は、社会の中にある。どのような高齢期を過ごすのかは、その前の生活の仕方が

決めると言う。社会内での回復の鍵は、刑務所での過ごし方にあると言っても過言ではなからう。

回復に有効な柱の一つが、AAを始めとする「自助グループ」である。日本にもたくさんのAAグループが存在し、毎日どこかしらでミーティングを開いている。社会に出て、ミーティングに参加しようと思えば、参加でき、新たな人間関係も築ける。新たな自分を確立していくには、またとない仕組みである。実際に回復の道を歩き続けるのは本人であるが、支援者としては、こういう地図があるよ、方法があるよ、ちゃんと回復できるよ、ということを示す材料を提示することは、簡単にでき、かつ有効なことであろう。

各地域より

AA沖縄地区迎春の集いを終えて

実行委員長 たか

日程 2012年1月2日

場所 沖縄市美里 中部福祉保健所

沖縄地区迎春の集いは毎年恒例になっています。僕自身も沖縄のAAで酒を飲まなくなって以来、毎年参加しています。今年は初めて一日を通して参加しました。最初は実行委員長だから仕方なく、という気持ちも正直なところありました。しかし、終わる頃には...

この集いは、それほど大きなイベントではありません。それにしても、集合時間になっても人がまばらで少し心配になりました。しかし、だんだんと人数も集まり開始時間には始める事ができました。そして、最後まで終えたときの達成感と仲間との一体感はとてもいいものでした。参加人数は60人で県外からの仲間の参加もあり、例年よりも活気が出てきているように感じます。今年のテーマは「新しい生き方」で、仲間の中から希望を持つ事ができたように思います。

昔の僕は人の話に合わせて頷くことはできても、本当の意味で相手の気持ちをわかる事はできませんでした。それに、AAに来たばかりの頃もミーティングではみんな昔の辛い話ばかりして、これが何の役に立つのか、とっていたものです。仲間の辛い過去の話聞いて共感し、そこから何かが見えると思えるようになったのは、今までにない全く新しい生き方ができるようになったからだと思います。この生き方ができるようになったのは僕一人の力ではなく、一緒に歩いてきてくれた仲間、スポンサー、そしてAAプログラムのおかげだと感じています。元々こういうことを言うような柄ではなかったのですが、今では本当にそう思えるようになりました。仲間の話が聞けるようになりフェロシップの中に入れたのです。このフェロシップが僕にとって飲まないでいる為には大切なもので、最近になってそのフェロシップの為に自分も何かしたい、と思うようになりました。沖縄にAAのフェロシップがあったからこそ、今でもお酒を飲まないで生きることができています。

今年は沖縄にAAが伝えられて25年という節目の年です。そこで、10月の20、21日で25周年の記念イベントを開催する事になり、僕も実行委員の一員として関わらせてもらう事になりました。

開催場所は数々のリゾートホテルが立ち並ぶ本島西海岸恩納村のモリマーリゾートで、目の前にビーチが広がる最高のロケーションです。そんなホテルだと宿泊費が高いと思われそう

ですが、宿泊費、バーベキュー、朝食、参加費込みで、8,000円前後になる予定です。これから話し合っただけなら決めなければならない事もたくさんあり大変だと思いますが、県外からの仲間にも参加して楽しんでいただきたい、沖縄のAAが活性化してほしい、という委員会みんなの思いです。なので、イベントに向けて頑張っ取り組んでいきたいと思っています。沖縄は離島なので、他の県の仲間と交流する機会が少ないのが現状です。今回のイベントがたくさん仲間と知り合う機会になればと思います。ぜひ沖縄にも希望のメッセージを！みなさんの参加をお待ちしております。

第26回AA関西迎春ワークショップを終えて

実行委員長 豊次

日程 2011年12月31日～2012年1月2日

場所 京都府亀岡市 太田保育園

テーマ 『見つかった居場所-分かち合おう、苦しみも喜びも』

昨年の12月31日から今年の1月2日にかけて、AA関西の迎春ワークショップが京都府亀岡市の私立太田保育園で開催されました。前回にひきつづき2回目の当地での開催になりました。2011年の6月頃に、前回の実行委メンバーからそろそろ起ち上げないといけないね、という提案があり準備会を持ち、第1回実行委員会を起ち上げ、開催場所の選定から始めました。

開催場所については、大阪府内のユースホステルや公共の施設などいくつかの案があがりましたが、参加者がゆっくりとくつろぐことができ、なおかつ食事について自前のメニューが用意できることなどを提案して、当保育園で開催したいということになりました。保育園は、迎春ワークショップ開催期間は年末年始で休園となることもあり、快く私達に貸してくれることになりました。

前回、『みんなが、主役』というテーマで手作りの迎春ワークショップを開催し、そのうえに立って今回『見つかった居場所』=分かち合おう、苦しみも喜びも=というテーマになりました。

その後、十数回の実行委員会を重ねてきましたが、その多くがプログラムやミーティングについてはもとより、入浴場所の確保についてであったり、調理用具や食事後のゴミ処理方法についてであったり、特に冬場の寒い時期の寝具をどう確保するかなど、数十名の参加者の3日間の生活をどのように支えるかということも、大きな課題でした。

特に、風呂については屋外の施設を利用することになり、場所や送迎についてのかかなりの討議を重ねましたが、仲間の協力を得て無事送迎を果たすことができました。

当日までの準備として、12月29日には、餅米や餅つき道具の運び込み、寝具50組の受け入れ。30日には寝具の各部屋への運び入れ、関西セントラルオフィスから園への調理器具や各種用品の運搬、食材の買い出し、掲示物、受付、24時間ルールの設営など開会に向けた準備が整って行きました。AAメンバーの手際よい段取りには、いつものことですが驚かされます。

31日昼頃、餅つきが始まりました。手慣れた仲間・初参加の仲間も一堂に会して楽しみ、その場で丸めたお餅をいただくことになりました。12月の中頃までは、参加申し込みの出足も悪く、直前までかなり気をもんでいましたが、最終的には約50名が宿泊することになり、安堵することができました。

当日17時からのオープニング・セレモニーには、遠方横浜や愛知、島根の仲間の参加や、迎春には必ず参加してきたという関西の仲間の自己紹介もあり、ほんとうに心強く思いました。

賑やかだった年越しミーティング、カルタやしりとり・ビンゴなどのレクリエーション、近くの神社まで田園風景のなかを歩いた初詣の散策、数々のミーティングなど盛りだくさんのプログラムを用意しましたが、それぞれの参加者が自分なりの思いを込めてそれぞれのメニューに対応してしてくれたのではないかと考えています。炊事班が用意してくれた海鮮鍋やスキヤキの夕食、年越しそば、朝のお雑煮とおせちなど手作りの料理も十分堪能しました。

1月2日、最終日には朝食後、参加者全員で各部屋の後かたづけ、トイレやホールなど使った場所の大掃除を行い、もとの状態にもどして保育園にお返しすることができました。

実行委員メンバー一同、皆さんの御協力に感謝！感謝！です。山々に囲まれた田園風景の中で過ごした3日間、テーマにふさわしワークショップになったのではないかと感じています。

+++++

関東甲信越ラウンドアップ in 箱根

実行委員長 りりい

日程 2011年11月4日～6日

場所 神奈川県足柄下郡箱根町 箱根高原ホテル

テーマ 『湘南発・・・真心のせて箱根ゆき』

神奈川県湘南地区主催のラウンドアップは紅葉シーズンの箱根で開催されました。参加者はのべ300名近くになり、大きな事故やトラブルもなく無事に終わることができて心からほっとしています。

ラウンドアップ開催にあたっては地区委員会で何度も話し合われました。いざ開催が決まっても一体どれだけの仲間が実行委員として関わってくれるのか、本当に大丈夫だろうか、という心配を抱えながらのスタートでした。でも仲間の輝いた顔を見ていたらそんな心配は無用でした。

さて、箱根ラウンドアップのコンセプトは「地区全体が参加の手作りラウンドアップ」「真心のこもったサービス」。そこで記念品のブックカバーを300個手作りで作成するという暴挙(?)を思いつき力を合わせて完成。ここから一気に仲間の力が集まり始めました。またラウンドアップにはつきもののラッフルも今回はやらないことにし、代わりに手作りのクイズ大会を企画。ご当地クイズやAAクイズの問題を知恵を出し合って作りました。他にも各種ミーティングや関係者の話、ハイキング、体育館での企画など、少しずつ形になっていくラウンドアップに期待や不安、時にはちゃぶ台をひっくり返すような議論を重ねながら、当日を迎えることになりました。

当日はホテル自慢の温泉と予想以上の豪華な食事に実行委員も満足いっぱい。帰っていく仲間の笑顔に随分と力をもらいました。

とはいえ私は「ラウンドアップが終わったら湘南地区抜けてやる!」「ハイパーパワーなんかどこにもいないじゃないかっ!」とヤケクソになること数知れず。それでも「絶対力になる」という仲間の言葉は本当なんだと今は自信を持って言えます。自分の回復のプログラムにラウンドアップ実行委員という経験を加えることができ本当に感謝しています。そしてこの経験が湘南地区をもっと強く、たくましくしてくれると信じています。たくさんの方に感謝です。

+++++

北海道地域パブリックミーティング

実行委員長 バク

日程 2011年12月11日

場所 苫小牧市民活動センター

テーマ 『地域社会でのAA広げようAAの輪』

こんにちは。アルコール依存症のバクです。苫小牧グループです。先日、苫小牧にて開催された平成23年度AA北海道地域パブリックミーティングの実行委員長を務めさせていただきました。その経緯と感想を書かせていただきます。

まず、パブリックミーティングを引き受けることになった経緯ですが、北海道地域では例年のごとくラウンドアップの中で行われていたものが今年は単独で行われる事になり、そうなればどこかのグループが担当しなければならないという状況だったように思います。実のところ、僕のグループは(僕だけかもしれないが)一応どこのグループも名乗りを上げないのであれば仕方がないからやってもいいかなぐらいの気持ちで名乗りをあげた、なんとも消極的というかそれとも傲慢といったらいいかうまく説明できないのですが、そのような気持ちが入り混じった感じていました。これで自分たちは一応名乗りを上げた、あとはほかのグループが引き受けてくれれば一番いいのに、と思っていました。

しかし、ことはそうはならず苫小牧グループが担当することになり、あろうことか僕が実行委員長をする(ほかの主要メンバーが忙しくてできない、あるいはソーバーが短いなどの理由で適当なのが苫小牧グループには僕しか残っていなかったというのが実状です)ことになったのです。

苫小牧で開催する以上は苫小牧から実行委員長が出ないのは格好がつかないという見栄と、もし苫小牧から実行委員長が出なかったらほかのグループの人に何を言われるだろうという恐れから、実行委員会が行われた初日に自ら立候補をして承認されたのです。

他にたいしたサービス経験もない自分がどういうわけか実行委員長をやることになるとは...自分で立候補したとはいえなんだか腑に落ちない気持ちがありました。でも、どんな理由があっても自分で引き受けたのです。誰に命令されたわけでもありません。そんなふうに自分に言い聞かせ、せつかくの機会だからやってみよう、と思うことでなんとか納得して臨むことができたのです。自分のことばかり考えて、実行委員会のメンバーが協力してくれる(もちろん、実行委員会のメンバーは、みんな一緒にやろう、協力するからとってくれたのですが)とは思えませんでした。

でも、実際に実行委員会が始まり、パブリックミーティング開催に向けて動き出すと、みんなが協力してくれて、一人で悩む必要はない、みんなと一緒にやっていくんだと本当にほっとしたのを覚えています。

開催まで時間がたっぷりあったのも(5月に実行委員会が立ち上がり開催が12月だったので)僕にとってはよかったです。仲間に恵まれ、準備期間が普通より長く取れたことは何事も投げ出しがちだった僕に何か大きな力が配慮してくれたのではないかと考えてなりません。パブリックミーティングがうまくいかなかったら、医療関係者が一人も来なかったらどうしようと不安になっていた僕に、うまくいくかいかないかではなく、まずやってみることが大事なんだ、不安の先取りはするなとってくれた仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。

実行委員会も思っていたよりも順調に進み、(多少の意見の

食い違いもありましたが、当日参考資料の注文の数の間違いや、実行委員会当日の議案の不備等、主に迷惑をかけたのは僕でした)開催日当日を迎えることができました。結果的には概ね成功したといえるものになったと思います。医療関係者の方々からは、もっとAAの広報をしっかりとしてほしいというような意見を多くいただき、自分たちのグループのこれからの活動の指針を得ることもできました。本当に貴重な体験をさせていただいたと、終わった今になってやっと思えるようになりました。やったのではなく、やらせてもらったと。不思議な気持ちの変化です。あれやこれやの状況、当日のイベントに参加、協力してくださったすべての皆様へ感謝、感謝です。

第17回 AA 日本全国評議会を終えて

B類常任理事 財務担当 糟谷

日程 2012年2月10日~2012年2月12日

場所 川崎グランドホテル

テーマ 『私の責任』

2012年2月10、11、12日の3日間にわたり第17回AA日本全国評議会が川崎グランドホテルに於いて開かれました。このホテルでの開催は会場閉館に伴い今年で最後となります。各部屋の表札も取りはがされていて第9回から9年間にわたり開催させて頂き多くのメンバーの口角飛沫が飛び交う場所だっただけに、より一層寂しさを感じました。この川崎グランドホテルの前の会場(ホテルB&G)も閉館に伴っての会場変更だったそうで、AA全国評議会の会場は閉館なんて都市伝説が生まれなきやいいけど、とくだらないことを考えたりしました。次回、第18回からは幕張セミナーハウスに会場が移り新たなAAの足跡が残されていくこととなるでしょう。

さて、今回全国から各地域の評議員19名(一名欠員)、常任理事A類2名、B類5名(1名欠席)、WSM評議員2名、JSO職員4名の構成で実施されました。19名の評議員の内5名は評議員代理での参加でした。議決権は2/3は評議員が占めることが提案されていてWSM評議員2名とJSO職員2名は議決権を持たない立場で参加となりました。日本の全国評議会ではオブザーバー参加が認められているので全国から多くのメンバーが集まりました。(のべ27名)また、10名の事務局書記団、受付係2名の力強いご協力の下、開会!

まずはA類の先生のご紹介(簡単なスピーチ)。新しい評議員にとっては少し遠い存在かもしれないA類の常任理事、とてもすてきで熱心なお二人を感じられたことと思います。

そして常任理事選挙!今回初めて選挙を評議会会場にて執り行うことと成りました。とはいえ、実際に4人の立候補者のメンバーすべてが会場に来ているわけではなく、ただそこで投票用紙に記入するというなにか物足りなさを感じましたが、全国選出常任理事1名・東日本圏選出常任理事1名が信任投票にて信任を得、全体サービス常任理事1名枠のところを2名で選挙致しました。2回の投票で3分の2を得られず、帽子によるくじきにより選出されました。残念ながらWSM評議員は立候補者なしでした。

これで、2012年4月から新体制の常任理事会が誕生します。乞うご期待!

その後2011年度事業報告と決算が承認されました。残念ながら財政上収支報告ではマイナス約3,000,000-となりましたので、質疑応答では厳しい質問を妄想していたのですが、実際には質問よりも厳しくも前向きなご意見を拝聴することとなりうれしく感じていました。

2日目。3つの分科会に分かれての議題の審議、1分科会8名から13名の構成で突っ込んだ審議を談論風発されていたのだと思いますが、しすぎたところもあり、すべての議題を審議する時間が無くなった分科会もありました。

午後からは各評議員による地域報告とディスカッションミーティング。ここでも財政・広報・メッセージとこれからの展望がディスカッションされました。

2日目夜から分科会の審議を経て全体会議へとクライマックス!の前に、評議会本会以外について少し。

食事はすべて前もってホテルに依頼したメニューをほとんどの方が召し上がっていました。食事の時間がいちばんのフェロウシップタイムのような気がします。メニューがおいしいかどうかは個人的判断によるものですが、自分は気に入っていました。(でも値段が高い気がしますけど)泊まる部屋は設備的には十分と思います。エアコンが強烈に効きすぎて体温管理に苦慮しているとの声もあつたりしましたが、3日間皆様何事もなく元気に過ごされている様子で、それが何よりだったなと思っています。さて、最後の全体会議。

百家争鳴の熱い審議の結果は、事務局からの速報・報告書を、それよりも各地域の評議員からの報告を楽しみにしていただきます。

ひとつだけ大きな決議がされました。それは出版物をインターネット通販サイト「Amazon」で頒布を執り行うことを承認するものです。

昨年大きな災害にみまわれAA全体サービスとして危機管理の問題・財政上の問題・AAの広報をどうしていこうか(内側に向けての発信ではなく広く外部にAAをもっと知らしめたい)こういった観点からこの議案が動議として出され過去2回否決を経た議案ですが、満場一致で勧告決議と成りました。そして2012年度予算案も一括して勧告決議されました。

これが本年度どのようになっていくのか未知数の部分は多くあるかとは思いますが、いずれにせよ、変化をそしてよい結果をもって来年の新しい会場での第18回AA全国評議会で報告できるよう願っています。

そして最後の最後に現常任理事の信任投票が行われました。全員信任を受けほっと胸をなでおろしていたことでしょう。

第17回AA全国評議会に携わってくださったグループ・地区・地域のご支援、そして一年かけての準備してきた事務局の皆様、神業のような手際でお手伝いくださいました書記の方々、明るく出迎えてくださった受付の皆様、こころより感謝申し上げますとともに今後益々のご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

ありがとうございました。

編集・発行： NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月~金) 10:00~18:00 (土・日・祝) 休